

短大・クリニック・こども園の三位一体で 地域のお年寄りを元気に

昨年春まで一一年もの長きにわたって名古屋第二赤十字病院長を務めた石川清氏が今春、愛知県で唯一のリハビリの短期大学である学校法人佑愛学園 愛知医療学院短期大学の新学長に就任。臨床医の現場リーダーから教育現場のリーダーへ。「これからは、地域のお年寄りを元気に」をやりがいに石川氏の第二の人生が、いざスタート。

(聞き手は塚本隆・中部財界フォーラム社社長)

—— 四月一日をもって学長就任、おめでとうございます。まずご就任に当たっての抱負をお聞かせください。

石川 本学園は今までは、短期大学単体として発展を遂げてきました。しかし、これからは短大、クリニック、こども園の三つの組織が三位一体となって、地域や行政と強く連携し、しっかりと地元根差した学園創りをしたいと思っています。全学園一丸となって目指すべきビジョンに向かっていきたいと思えます。

—— 目指すべきビジョンとは。

石川 私が描いている本学園のイメージは「クリニックを受診した地域のお年寄りに短大の学生が寄り添い、こども園の子どもと一緒に歓談する姿」です。お年寄り、学生、こどもの三世代が互いを思いやり、助け合う心を養いながら、日々日常の生活の中で交流する姿です。お年寄りは、学生、こどもとの交流によって生きがいややりがいを見出し元気になると思います。そんな形で地域のお年寄りを元気にするのが学園の目指すべき

ビジョンです。

—— 総じていえば地域に貢献する学園ということですね。

石川 本学では長年にわたって、清須市との官学連携事業で高齢者のための運動教室や「清須市民げんき大学」に取り組んできました。これをさらに発展させ、げんき大学の卒業生を高齢者の介護予防や認知症予防などに携わるリーダーに育成したいと思っています。いま新しい時代の大学像として求められているのは、「大学を中心に自治体や企業を巻き込んだ地域特有のブランドデザイン」ですが、本学園も清須市や企業を巻き込んだ特色のある学園を目指したいと思っています。

—— 日赤時代には災害救護や国際救援でも活躍されていましたね。

三つは組織改革には不可欠で、そのための手段としてコーチングは最適だと思います。いまコーチングは「個人が学ぶスキル」から「組織改革の手段」へとその活用場が広がっています。コーチングが学園の風土となれば、三つのキーワードの達成ばかりでなく、コミュニケーションが良くなり、リーダーのリーダーシップ育成もできます。勿論、コーチングのスキルは、学生教育にも活用でき、学生の中途退学や留年の問題を解決する一助となります。

—— 昨年は病院で健康経営センターの産業医としても活躍されていましたね。

石川 いま一般企業では「健康経営」が普及しています。職員が健康になれば経営は良くなるという考え方です。病院でもその考えを取り入れ、昨年、健康経営センターを立ち上げ産業医として職員の健康管理に関わってきました。本学園も健康に深くかかわる業界ですから、教職員ばかりでなく学生の健康を第一に考え、「健康経営」を取り入れようと思っていま

石川 その経験を買われて、現在、日赤愛知県支部の災害アドバイザーという肩書を頂いています。清須市は以前、東海豪雨で大きな被害を受けたことがあり、今後も水害が予想されています。南海トラフ地震では、県下で最も液化現象が危惧される地域です。市内で唯一の医療系大学であることから、本学園には大きな期待が寄せられており、災害医療救護を本学園の柱の一つとして位置付けたいと思っています。そのために日赤と本学園とで災害救護に関する協定を締結する予定です。日頃から連携を密にして、日赤が実施する災害訓練に参加することによって災害救護のできる人材を育成したいと思っています。清須市の総合防災訓練への参加や地域住民を巻き込

ます。教職員・学生の一人ひとりが自らの健康増進を意識し、心身共に健康で生き生きと働き・学ぶことができるような学園作りをした

—— 最後に、これからの人生の生き方は。

石川 百歳で亡くなった母が「人生百年古来稀なり」という言葉を言っていました。いま人生一〇〇年の時代、まだ三〇年もあることを考えて、健康長寿を目指したいと思っています。「規則正しい生活習慣と人生のやりがいが健康長寿の秘訣」が私の信念ですが、これからは、学長として「地域のお年寄りを元気にする」を人生のやりがいとして頑張っていきたいと思えます。

んだ災害訓練・研修会等も行い、本学園がこの地域の災害医療の拠点として地域から期待される存在になりたいと思います。

—— 院長時代には、組織改革にも着手され成果を上げておられましたね。

石川 医療界と教育界、病院経営と学校経営とは全く別の世界と認識しています。しかし、組織として考えると類似点も多いと思います。新たなビジョンを目指すためにには組織改革が必要です。院長時代に最もやりがいを持って一生懸命取り組んだのは「コーチングによる組織改革」でした。コーチングを病院の風土とすることで、

院内で多くの主体的な動きがみられましたし、直面した幾つかの課題を乗り越えることができました。本学園でも新たなビジョンに向けて、その手段としてコーチングを導入し、コーチングを学園の風土としたいと思っています。

—— 具体的にはどんなことを達成しようとしておられるんですか。

石川 組織にとって、やりがい、主体性、チームワークという三つのキーワードが非常に大切だと思っています。職員のやりがいの主体性のある組織づくり、職員の主体的に物事を考え行動する姿勢、部門間に壁のないチームワークの良い組織、の三つです。この



石川 清 (いしかわ きよし) 1947年名古屋市生まれ。70年名古屋大学工学部航空工学科卒、77年名古屋大学医学部卒。名古屋市長立大学病院集中治療部助教授、名古屋第二赤十字病院副院長・救命救急センター長などを経て2007年から同病院院長。18年定年退職して同病院名誉院長に就任。

学校法人 佑愛学園

愛知医療学院短期大学、ゆうあいリハビリクリニック・デイケアセンター、ゆうあいこども園を併設。短期大学は三十七年の歴史を持ち理学・作業合わせて約一七〇〇名の療法士を輩出。こども園は二〇二〇年四月開園予定。園児約一三〇名の受け入れを計画。佑愛学園の理学・作業療法教育を生かした障がい児園児も受け入れ地域社会に貢献する「認定こども園」を目指す。